

平成 27 年度 第 3 回 糸島市公共施設等総合管理計画検討委員会

議事録（要旨）

1 日 時 平成 28 年 2 月 19 日（金） 18 時 30 分～20 時 00 分

2 場 所 糸島市役所 本庁舎新館 4 階会議室

3 出 欠

(1) 出席者

（委 員）谷口委員長、池添副委員長、柚木委員、二木委員、石川委員、藤井委員、
今泉委員、徳田委員、桑野委員

（事務局）田浦総務部長、谷課長、久我係長、富村主査、西原主査
日本経済研究所 3 名、西日本シティ銀行 2 名

(2) 欠席者 なし

(3) 傍聴者 なし

4 会議結果

【会議次第】

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 報告
- 4 協議
- 5 その他

報告内容についての意見交換等は以下の通り。

【(2) 他市の総合管理計画の紹介について】

A 委員

これは雛形として出しているのか。出来上がりはこんなイメージとして持っておいたらよいか。

事務局

これから協議させて頂きたい。事例では類型別のところがコンパクトにまとめられているので、糸島市の場合、この部分のボリュームを膨らませることをイメージしている。

【(3) 糸島市公共施設等総合管理計画策定に係る市民アンケートについて】

C 委員

P.6「公共施設の適切な維持管理や建替え、新設」について、利用者負担を拡大していくことには市民はアレルギーがある。お金というよりも、自分たちでそれ相応のことをやっていくというのを周知する努力が必要。何故、地域でやらなければいけないのかという骨組みを伝えていかなければいけない。口で言うほど簡単ではない。

H 委員

P.6「民間活力の導入」について、総論としては78%という賛成が得られているが、

各論になると誤差が生じる。例えば、図書館をどうするかといった場合、民間に持っていったいいのかということについて、色々意見を持っている人がいる。総論で78%だから、それでいくのかという訳にはいかず、各論で精査する必要がある。

I 委員

ここで何%といっても、全体の中で50代、60代、70代の意見ということがあるので、この先40年、50年を考える場合、若い人の意見ではないということになれば、何となく頼りない数値と感ずる。

また、産業観光系などのまとめ方としているが、それぞれの施設のミッション、何をすべき施設なのかが見えた方が良い。果たすべき役割が見えれば、今の区分が違って似たような施設が出てくるかもしれない。

A 委員

今のI委員の1点目について、年代別とのクロスで分析によって見えてくるものがあり、緻密な分析ができる。

2点目については、今、別に区分されている施設でも重複するものがあり、逆に同じカテゴリーに見えても、役割が違うものがあるかもしれない。個別に見ず、総論で纏めると方向性を間違える可能性がある。

F 委員

テクニカルな話であるが、年齢別のクロスは必須。例えば、P.3~4「施設の利用状況」については年齢別のクロスは必要。また、P.6~7の「これから公共施設をどうやっていくのか」というところも、年齢によって違いがあるので年齢別クロスは必要。それから、このアンケートをもって何に使うのか。ただ現状を把握するためのものとして使うのか、もしくは将来的に2~3億円財源が足りなくなるので、更新をしない施設のあたりを付けるための材料とするのか。仮に後者の場合、P.3~4「利用状況」だけでは分からない。例えば「利用状況」をポイント化して平均値を出し年齢別の動向を見るなど、ある程度数値化する必要がある。一方、現状を把握するためのものであれば、片っ端からクロスをかけることになると思うが、事務局に負担が掛かる。

アンケートをどう使うのか、事務局の考えを伺いたい。

事務局

冒頭に公共施設の状況、課題を市民にお知らせした上で、市民がどう考えているのか、方向性の目安を把握したいというのが狙いの1つ。利用状況については、このアンケートが全てを表している訳ではないので、担当部署に調査票を作成してもらい、実際の利用状況については、そちらで把握していく。このアンケートは、こういった年齢の人が利用しているのか、不特定多数の人が利用しているのか、特定の人が利用しているのかなどの傾向を把握したいため行っている。クロス集計については、年齢別を中心にやっていきたいと考えているが、全てについてクロス集計をするのではなく、要点を絞ってやっていきたいが、どのようにするのかは、これから検討していきたい。

F 委員

それであれば、例えばP.3~4「利用状況」は、人をベースにし、Aさんが何施設利用しているのかなどを集計すれば、だぶって使用している状況、分布状況が把握でき、

使われ方がマクロ的に分かると思う。方向性ということであれば、P.6～7の「公共施設の建替え、新設についてどうやっていくべきか」の分析が重要。この結果を見た場合、

「負担を拡大」は嫌だと思う。一方、の直接の費用負担は嫌だが、自分たちで主体的にメンテナンスを行っていく人が多いことが肝だと思う。こういったものが増えれば、間接的に人件費換算でやる事が出来るため、施設毎、男女比、年齢別をもう少し見れば良い。

B 委員

F 委員と重複するところがあるが、P.3～4の「利用状況」については、施設評価に繋げるものではなく、大まかに把握するものであり、クロス集計をやってもあまり意味はない。頻度という点では何かしら見えてくるかもしれない。

P.6～7「公共施設をどうしていくべきか」については、クロス集計で明らかにすることで、今後市民に公表、説明するにあたって有効な基礎資料となる。印象としては、

「住民が主体的に維持管理を担う」「利用者負担の拡大」が特徴的で、で6割近い人が地域で運営するという意識を持っているところはすごいこと。については、都市部では、利用していない人から見て、税金で賄うのではなく、利用している人が負担すれば良いという考え方もあるが、糸島市の場合、6割、8割の人が公共施設を利用していないが、利用者負担拡大について反対意見が多いというのは特徴的だと感じた。次の更新に活かせる結果ではないか。

最後に、インフラを廃止するという意見が8割あるところが不思議であり、何か要因があれば教えてほしい。

事務局

推測になるが、身近にある利用されていない小さな公園などをイメージして回答したのではないか。

G 委員

民間活力というキーワードがあるが、公共施設で利用料金を取っているもの、取っていないもの、料金の高い、安いなどはどうなっているのか。

事務局

今は混在している。

G 委員

料金設定を変えるなど工夫の余地がある。また、施設を知らない人が多いので、周知させて利用を増やすことも必要。ただし、利用頻度が上がれば、管理コストは上がるので収支を検討する必要はある。

C 委員

自分たちで維持管理を行っていくという意見が多いという話になっているが、前の市長の時に、15校区で自分たちで地域を見てまちづくりを行ってくださいということになって、始めは区長も何が出来るのかと言っていたが、5年目になって住民で何が必要か考える意識が芽生え始めている。そこで、お金は出したいくない、労力は提供できるといったことがこのあたりの回答に現れているのではないか。

協議内容についての意見交換は以下の通り。

【(1) 糸島市公共施設等総合管理計画について】

F 委員

資料5の総量圧縮と総量規制の違いは。

事務局

総量圧縮については、それぞれの方針ということで、総量規制を目指せば、圧縮につながるという結論となるが、それでは分かりづらかったので、圧縮というのは、今ある施設を前提として、機能を集約しながら圧縮をかけていかなければいけないという方針を考えている。総量規制というのは、基本的に新しい施設、更新する施設について、将来の削減目標の範囲内に収めていくことを考えている。

F委員

圧縮というのは、既存施設の面積を減らすというイメージで、規制というのは、ゼロから作る場合と完全に更新する時に目標に合わせて減らしていくというイメージか。

もう1点、資料6で普通建設事業費の決算と公共施設維持更新の金額が均衡するところで、25%減ということで計算されている。ここで、新しい施設や更新する施設についても公共施設維持更新に含まれているのか。維持更新の金額だけのように見える。新しい施設や更新する施設も含まれているのであれば良いが。

事務局

現在出しているものについては、新規のものは入っていない。今後糸島市では総合運動公園等の大規模事業を検討しており、そこも含めて検討していかなければいけないとは考えているが、面積などを具体的に落とし込めるかなど、これから検討していきたい。

F委員

維持更新だけの金額とこれまでの実績の延長線上の金額ということで理解した。

B委員

印象として、基本理念はとても良いと感じた。「糸島生活」という「生活」に価値を置いて考えていくこと、未来の糸島のために質、量、コストの最適化というところも、糸島の魅力を捉えた上で考えていこうというのが見えてくるので、「糸島生活」というキーワードはとても良い。この基本理念を踏まえた上で、3つの主旨については、もう少し考えていかなければいけない。例えば、「ニーズ」という言葉で、「市民ニーズ」や「地域住民ニーズ」があるので、もう少し言葉の精査をしていかなければいけない。「最適化」についても全部にかかってくるので、主旨については精査が必要。一般的な話となってくるので、糸島らしいキーワードはもう少し入ってもよい気がした。

取組方針については、大まかには良い。方針については、糸島らしいものがダイレクトに出てくるものではないので、どうやって出していくのかはこれからの課題だが、整理の仕方はもう少し精査しなければいけない。質、量、コストの最適化のところ、パッと見ると質の部分が見えない。 、 、 については、今回は細かい部分は言わないが、重複する部分もあって、もう少し精査する必要がある。

F委員

理念のところは良いが、主旨のところはテコ入れが必要。C委員が言ったように、自治の取り組みというのは、こういったものに欠かせず、糸島らしさだと思う。

A委員

議論の出発点として何のためにやるのか。現状がこうで、放っておいたらこうなる、だからこうしなければいけない、こうするためにはどうすれば良いかということ。現状

をこのまま放っておいたらどうなるかというところがしっかりあって、これは大変だ、何とかしなければいけないというところにコンセンサスが取れば、どうするかというところを考えていくのだが、最初のところでコンセンサスが出来るかどうかということ。削減目標の25%減らさなさいというのは大変なこと。住民に話をして、何故25%減らさなければいけないのかというところが、一番肝心なところで、25%削減といって「はい、そうですか」とはならない。何で25%なのかというところをしっかりと説明しないと、そこから先には進まない。新規更新費用が入っていないのであれば、財源不足になる。長崎市の場合は、財源不足にならないようにするために、これだけ減らさなければいけないという確固たる信念を持って住民に説明をして、総量規制などを行っている。何をやらなければいけないのか、というところにコンセンサスが出来るかどうか肝心なところで、本日そういった説明が1つもない。現状と課題のところにも何も書いていない。それを説明しなければ先に進まない。最低限これをやらなければいけないというところが出てくれば、あとはどうやってやるのか、どこからやるのかとなるが、全体でこれだけやらなければいけないというのがなければ一步も進まない。その入り口のところの話を今日は聞いた気がしない。さいたま市にしても、どこにしても、そこは徹底的に議論しており、仮に目標数値を設定してといった話ではない。確信を持って言える数字を示していただきたい。そうでなければ誰も納得しない。

事務局

新規が入っていないということで、これだけは必要といったものを事務局が把握できていないまま出しているので、目標値については、過去の状況から20~25%ということで出しているが、市民に理解いただけるような数字を精査して、もう一度提案させていただく。

A委員

相当な覚悟を持ってやらなければ、数字は一人歩きしてしまう。それが総合管理計画の柱となる。実現可能性など前提を含めて、それでも最低限ここまでやらなければいけないというものがあれば、仕方ないと思う。仕方ないと思えば、やるしかない。インフラをどうするのかというのは、大きな問題。

事務局

目標数値については、財政状況をきちんと把握してもう一度示す。

I委員

圧縮と規制について、勘違いしていた。減らさなければいけないというところばかりが見えるものだと、苦しいところ、納得がいけないところがあるかもしれない。住民の安心感というところで、ここだけは守るという考えを入れるなど、よく見えるところに安心感が得られるものを望んでいるのではないかと。

その他

B委員

アンケート、他市の状況を見て、総合管理計画の全体イメージはある程度、共有できた。個別の方針、目標については、もう少し議論が必要。この点が一番肝心なところだと思うので、引き続き議論を進めていきたいと思う。

事務局

昨年9月から議論を始め、本年度最後の委員会となるが、今から本格的な議論に入っていくという段階。これからもご意見をいただきながら、行政として大きな課題と受け止めているので、きちとした総合管理計画を作っていきたいと考えているので、今後ともよろしくお願いしたい。

以上